



市民病院内の旬な人や出来事を紹介する PARK HOSPITAL NOW



## がん相談支援センターにご相談を

がん相談支援センターでは、がん相談員が「がん」に関するさまざまな相談をお受けし、情報提供や問題の解決に向けて、一緒に考えていきます。ご相談の内容は、相談者の承諾なしに主治医や他の人に伝わることはできません。当院におかかりの患者さんやご家族だけでなく、他院受診中の患者さんやご家族からの相談もお受けしています。ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。



相談員／看護師  
三島 聖  
AKIRA MISHIMA

がんという病気について「知りたい」、「聞きたい」、「話したい」など相談の内容はさまざまです。必要であれば、主治医や多職種の医療スタッフと連携し、医療・ケアにつなげます。匿名での相談も可能ですので、いつでもお立ち寄りください。



### がん相談支援センター

受付：月曜～金曜(年末年始・祝日は除く)

時間：9:00～16:30

場所：診療棟1F 12番

予約不要、無料



## エイズ治療中核拠点病院に選定

長きにわたりエイズ治療に取り組んできた当院が、2023年1月に県内2施設目の中核拠点病院に選定されました。治療・診療方法が日進月歩で進む中、それらの情報の収集及び地域の医療機関への情報提供や研修会の開催などを引き続き行っています。

### エイズ治療中核拠点病院の機能

- 高度なHIV診療の実施
- 拠点病院に対する研修事業及び医療情報の提供
- 必要な施設・設備の整備
- 拠点病院等との連携の実施

横浜市立市民病院

診療  
受付

月曜日から金曜日

(土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休診)

- 初診の方 午前8:00～11:00（診療開始8:45）
- 再診の方 午前7:30～11:00（診療開始8:45）



### 救命救急センターへの受入れについて

- 平日 日中 原則、救急車で搬送された患者さんのみ受入れを行っています。
- 夜間・休日 必ずお電話にて連絡の上ご来院ください。

# PARK HOSPITAL®

安心と  
つながりの拠点

YOKOHAMA MUNICIPAL  
CITIZEN'S HOSPITAL

2023

July

TAKE FREE

vol. 38

横浜市立市民病院 広報誌 [パークホスピタル]



## 新病院長インタビュー

がんゲノム医療の可能性

### 「遺伝医療センター」



横浜市立市民病院



特集 「新病院長インタビュー」

## 公立病院としての使命を胸に、 良質な医療を届けていきたい

2023年4月、中澤明尋医師が病院長に就任しました。これまでの医師としての歩みや横浜市立市民病院の魅力、今後の展望などについて聞きました。

### 01 医学部の実習で気付いた 患者さんと接する仕事の魅力

医師を目指したきっかけを教えてください。

家族に医師が多かったわけでもなく、ごく一般的なサラリーマン家庭で育ちました。中学時代から理数系の科目が好きで、特に興味を引かれたのが生物や遺伝子の分野。もっと人体の不思議に迫りたいと医学部へ進学し、5年目に実習を経験したとき、患者さんと接する臨床のおもしろさに目覚めました。卒業後の研修では4つの診療科を回りましたが、最も魅力を感じたのが整形外科。担当した患者さんの機能が回復していき、退院後も外来で元気な姿を見せてくださることが素直にうれしくて、整形外科を専門にしたいと考えるようになりました。

### 02 患者さんと会話を楽しむ 絆を深めてきた

これまでの歩みで、医師として  
何を大切にしてきましたか。

何よりも、良質な医療を提供すること。そして、患者さんと積極的にコミュニケーションを図り、会話を楽しむことを心がけています。整形外科では患者さんと長

期のお付き合いになることが珍しくなく、30年も担当を続けているようなケースもあります。命の危機を何度も乗り越えた戦友のような患者さん、私が病院を移っても遠方から来院してくださる患者さんなど、絆が深い方々も数知れません。長年医師として働いてきましたが、そういえば、朝に目覚めて「出勤したくない」と思ったことは一度もありません。つくづくこの仕事が性に合っているのだと思います。



学生時代は音楽サークルで  
ベースを担当(写真左)

### 03 経営者の視点を持ちながら 「医師の良心」を忘れない

病院長に就任して、  
現在はどんな毎日を送っていますか。

市民病院では副病院長を10年間務めてきましたが、本年より病院長を拝命しました。重責に身の引き締まる思いですが、3年前に横浜市立大学で1年間学んだ病院経営の知識も生かしながら日々奮闘中です。経営者

としては病院全体を見渡しながら差配することが求められます。それ以上に医師としての良心を忘れないようにしたいと思っています。臨床の部分では他の医師にお任せすることも増えましたが、現在も外来を担当しており、患者さんと接する機会は失わないようにしています。



### 04 未病の段階から頼りになる 市民に身近な病院でありたい

あらためて、市民病院の  
魅力について教えてください。

医師や看護師といった医療従事者だけでなく、事務職なども含めてスタッフの質が高いことだと思います。これは、病院という組織にとって何より大切なこと。職員一人ひとりに「ずっとここで働きたい」と思ってもらえるような職場環境を整えることは、私が率先して取り組むべき重要なミッションの一つだと心得ています。また、2020年の移転を経て施設・設備が一新され、緑に囲まれた周辺環境にも恵まれています。今後はこうした立地を生かし、市民のためのイベント開催にも挑戦したいですね。例えば、隣接する三ツ沢公園で皆さんと運動するイベントを立ち上げるなどして、病気にかかる以前の未病の段階から市民に寄り添う病院を目指したいです。



病院長／整形外科長 中澤 明尋 なかざわ・あきひろ

長野県出身。1986年横浜市立大学医学部卒。藤沢市民病院や横浜市立大学附属病院などで勤務し、2004年横浜市立市民病院に入職。整形外科 部長、副病院長を経て2023年4月より現職。専門は整形外科。

### 05 地域医療の「最後の砦」として 今後も自覚と誇りを持って コロナ禍を経て、市民病院には どんな変化がありましたか。

当院は県内唯一の第一種感染症指定医療機関であり、地域において「最後の砦」としての機能を果たしてきました。最も多いときで約70人の新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れ、感染症内科のスタッフだけではなく、全病院職員が一丸となって対応しました。高度急性期医療と感染症対策を兼ね備えた取り組みが評価され、Newsweek誌の「World's Best Hospitals」に選出されたことも誇らしく思います。スタッフたちの意識はさらに高まっており、仮に今後新たなパンデミックが起こったとしても、今回の経験を生かせると確信しています。

### 06 市民からの熱い期待にこたえ 医療で安心感をもたらす存在に 最後に、患者さんに向けた メッセージをお願いします。

民間病院では採算が難しいなどの理由で手を出しづらいような領域にも積極的に取り組んでいくことが、公立病院の使命の一つだと考えています。何か困ったことがあったとき、「横浜市立市民病院を受診すれば安心」と思っていただけるような存在でありたいですね。市民の皆さんから本当に必要とされる良質な医療を提供し続けるため、病院長としてこれからも力を尽くしてまいります。



# 遺伝子情報から「次の一手」を探る がんゲノム医療の可能性

当院では、2019年から「遺伝医療センター」を開設し、がんゲノム外来を行っています。「ゲノム」というと難しいイメージを抱きがちですが、どんな意義や可能性がある医療なのでしょうか。岡本浩明医師、中村有希子医師、上見葉子医師に聞きました。



左から

遺伝医療センター  
部長  
**中村 有希子**  
YUKIKO NAKAMURA

遺伝医療センター  
センター長  
**岡本 浩明**  
HIROAKI OKAMOTO

遺伝医療センター  
部長  
**上見 葉子**  
YOKO AGEMI

## 01 「がんゲノム医療」とは どんなものか教えてください。

岡本：ゲノムとは、私たちの細胞内に存在する遺伝子情報の総称で、いわば生物の「設計図」です。この設計図の一部が書き換わる、つまり遺伝子変異が起こることは、がんの原因になりうると判明しています。現代のがん治療では、一人ひとりの遺伝子変異に対応した「分子標的薬」という抗がん剤が広く使われるようになってきました。すなわち、個々の患者さんに起こる遺伝子変異を特定し、それに応じて適切な治療薬を選択することが重要であり、それを支えるのががんゲノム医療です。「がん遺伝子パネル検査」では数百のがん遺伝子を網羅的に解析し、その人に合った治療法を提案します。

## 02 がん遺伝子パネル検査の対象となるのは、 どんな患者さんですか。

上見：まずは、次の治療を検討できるくらい全身状態が保たれている固形がん※の患者さんであること。その中で、すでに標準治療が終了／終了が見込まれる患者さんが対象です。肉腫のように標準治療が存在しないが

んや原発不明がんの患者さんであれば、治療前でも対象になります。

遺伝子変異が見つかり、治験薬などの新たな治療を受けられる方は、全体の1割程度です。ただ、当院のデータでは、それ以外にも既存薬の優先順位が明らかになるなど、4割弱の患者さんで治療方針の変更につながっています。必ずしも合う治療薬が見つかるとは限りませんが、厳しい現実に直面している患者さんにとって、「次の一手」を探る大きな希望となる可能性があります。

## 03 がん遺伝子パネル検査の流れや、実際に体験 した患者さんの様子を教えてください。

中村：患者さんから採取したがん細胞の組織、または血液検体を提出し、次世代シーケンサーという高度な解析装置で遺伝子情報を調べます。解析結果は複数の専門家で構成された委員会(エキスパートパネル)で入念に検討し、それをもとに主治医が治療方針などを決めていきます。結果が分かるまで、1~2か月程度かかります。

当院では、26歳から84歳まで幅広い年齢層の方が検査を受けられました。反応はさまざまですが、「治療につながらなくても、現時点で分かる限りのことを知ることができ納得感があった」「自身の今後を考える上で重要な判断材料の一つになった」と前向きな声も多くあります。

## 04 院内外との連携について、 重視していることはありますか。

上見：この医療はまだ新しい領域です。そのため、まずは検査内容や方法、メリット、注意点などを、多くの方に知っていただくことが重要です。当院では年1回の院内研修でスタッフがこの領域について学ぶほか、地域の開業医の先生方にも説明する機会を設けています。地域全体で知見を深め、連携していくことで、よりよい医療を提供していきたいと考えています。患者さん向けの情報提供の方法についても工夫をしていきたいと考えています。

## 05 患者さんに対するメンタルケアに ついてはいかがでしょうか。

中村：とても大切なポイントです。検査を受けても治療につながらないと分かったとき、精神的に落ち込んでしま

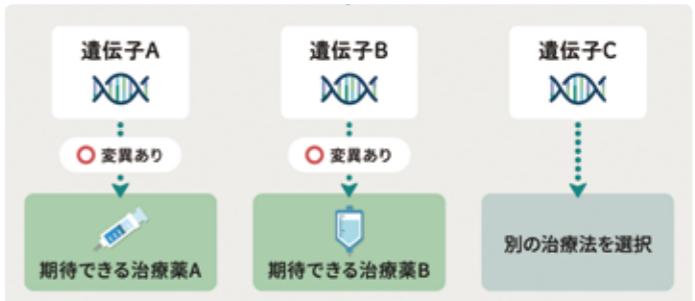
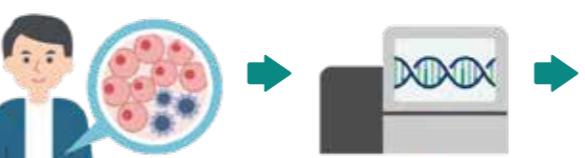
う方は決して珍しくありません。また、検査を受けて、「今のがんとは関係ない」予期せぬ遺伝子変異が見つかるケースもあります。事前に検査のリスクを十分に説明することに加え、検査後にも十分なメンタルケアが必要です。がん相談支援センターとの連携も含め、今後さらにサポートに力を入れていきたいと考えています。また、当院では2022年度より遺伝カウンセリング外来を開設し、遺伝子変異や遺伝性腫瘍について、臨床遺伝専門医の診察や説明を受けることができるようになりました。

## 06 がんゲノム医療が持つ将来的な 可能性について教えてください。

岡本：検査で得られたデータは、国立がん研究センター内のがんゲノム情報管理センター(C-CAT)に集約され、注意深く管理されます。その一部は大学や企業など研究機関に提供され、新たな診断・治療法の開発などに役立てられます。患者さんから提供された貴重なデータは、将来的な医療の質向上にもつながります。つまり、がんゲノム医療の可能性は「現在」だけでなく「未来」に向かっても開かれているといえます。関心をお持ちの方は、当院の主治医にご相談ください。他院からのご紹介の方は「がん相談支援センター(本誌裏表紙参照)」にお問い合わせください。

※固形がん：白血病などの血液がんと異なり、臓器や組織などから発生するがんの総称

### がん遺伝子パネル検査



画像提供：国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター

### 遺伝医療センター | がん看護専門看護師

「遺伝」と聞くと、今現在受けている治療だけでも精一杯なのに、大切なご家族にも何か悪い影響があるのでないかと、大変な不安を抱えることもあると思います。そのような時こそ、専門家から遺伝に関する正しい知識や情報を得て、その人らしいより良い医療の選択をするため、がんゲノム外来を利用していただければと思います。私たちもご病気や遺伝に対する思いや価値観を聞かせていただきながら、「これからどうしていきたいか」について一緒に考えていきます。



櫻井 めぐみ  
MEGUMI SAKURAI



## 「もしかして遺伝？」と思ったら… 遺伝カウンセリング

当院の遺伝医療センターでは、がんゲノム検査に伴う遺伝性のがんについての遺伝カウンセリングを行っています。また、がん以外のさまざまな遺伝性疾患を疑われた患者さんとの相談もお受けしています。



臨床遺伝専門医  
**麻薙 美香**  
MIKA ASANAGI  
水曜午前・予約制

臨床遺伝専門医として毎週水曜日午前中に成人の遺伝カウンセリングを担当しています。ご相談者はがん（遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）、大腸などの消化器がん）の方が多く、薬の適応判定の遺伝子検査で疾患が見つかった方を主治医からご紹介いただいているいます。

現在では、乳がん・卵巣がんに罹患していれば、新たにお薬を使わない場合でも、体質診断として保険で HBOC の原因遺伝子である BRCA 遺伝子検査を行える場合があります（発症年齢などにより自費検査になります）。ご自身が若く発症したり、血縁に乳がん・卵巣がんの方がいらっしゃったり、子孫への影響が心配でしたら、主治医にご相談ください。

それ以外のがんをご心配の場合、ほとんどが自費検査になりますが、生まれつきがんになりやすい体質を調べる遺伝子検査も行っています。欧米では一度に複数の遺伝子を調べる検査（生殖細胞系列遺伝子パネル検査）が主流になっています。どの遺伝子検査が適切かはその方の病歴や家族歴によって異なります。

がん以外の遺伝性疾患についてもできるだけ対応しています。静かな環境で約1時間お話を伺います。



小児科長  
臨床遺伝専門医  
**松崎 陽平**  
YOHEI MATSUZAKI  
火曜午前・予約制

がん以外のさまざまな遺伝性の疾患について、遺伝カウンセリングを行っています。

臨床遺伝専門医が疾患についての正確な情報を提供し、遺伝子についての検査、より高次の遺伝センターへのご紹介を含めたさまざまな選択や意思決定を支援しています。各疾患に関連する関係各科・各部署と連携し、必要な医療・サポートを提供します。「遺伝」と言われると急に不安に思われる事もあると思いますが、皆様に寄り添いながら、プライバシーを最大限に尊重したカウンセリング・診療を行っていますので、安心してご来院ください。

### がん以外の遺伝性疾患 ご相談例

- ・遺伝子疾患、染色体疾患を疑われている
- ・何か基礎に病気があるのではと思っているが、診断がついていない
- ・他の医療機関で診断されたが、その疾患について知りたい
- ・子どもを希望した場合に同じ疾患・体質をもつ可能性について知りたい
- ・親戚に遺伝性の病気の方がいて、自分もその病気ではないか知りたい
- ・妊娠中に受けた検査結果について知りたい

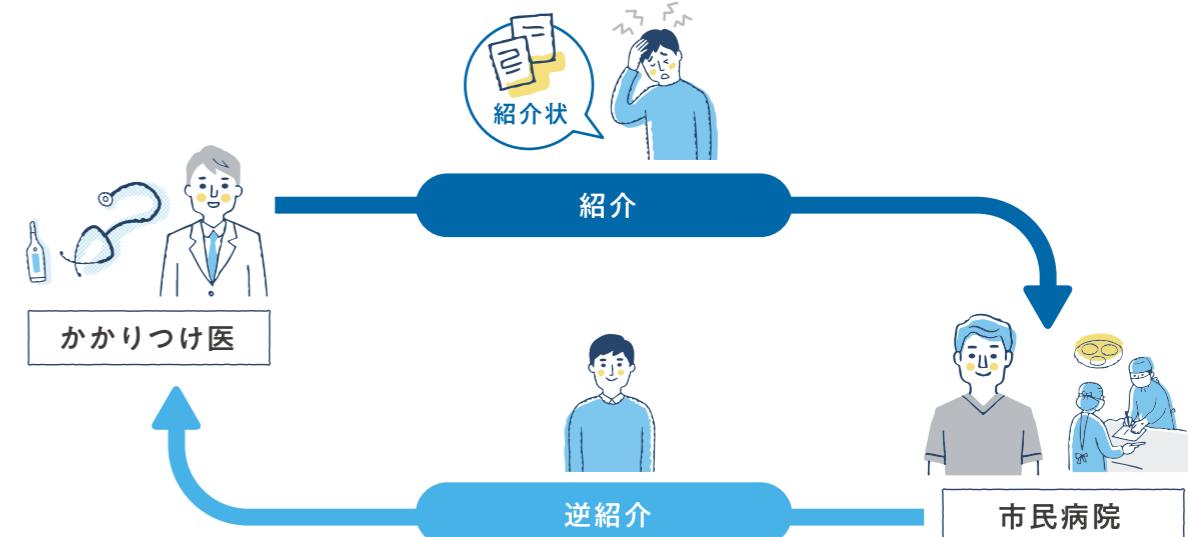
初診の遺伝カウンセリングは、あらかじめご相談内容の概要を伺ってから日時を設定します。



※遺伝カウンセリングや検査の費用は、保険適用できる場合があります。

## 紹介状をお持ちください 地域医療機関との連携

市民病院は、専門的な医療や手術などの入院治療を必要とする紹介患者さんを積極的に受け入れています。初診の方やはじめての診療科を受診される方は、地域の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちいただくようお願いします。症状が安定しましたら、ご紹介元のかかりつけ医などにその後の診療をお願いし、安心して医療を受けられるよう努めています。国が進める「医療機関の機能分担」や「かかりつけ医制度」に応じた適切な受診をしていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



### 登録医療機関をご紹介します 花レディースクリニック（旭区）

【診療科目】産婦人科／女性内科

当クリニックの理念は、「医療プロフェッショナルとして、すべての女性が幸せになれるように寄り添い、サポートしたい」です。更年期障害の方やがんサバイバーの方は、骨粗鬆症や脂質異常症のリスクを抱えています。近隣で妊婦健診を受けたい、出生前検査について相談したいと思っている妊婦さんも多いです。月経困難症・PMSで日常生活に支障が出ている方もいます。また、障害を抱えている女性を診察してくれる産婦人科がなかなか見つからないといった悩みを抱えている方もいます。これらすべて当院で対応できますので、お困りの方がいればぜひ当院にご相談ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30～13:00	○	○	○	-	○	9:30～14:00
15:00～19:00	○	○	○	-	○	-

【休診日】木曜日、日曜日、祝日

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-29-14 TEL:045-371-8739 URL:<https://flower-lc.com/>



須郷院長とスタッフの皆さん

